

平成十三年『路』年間賞

選考委員 関 水華・吉澤和子・内平登代子・堀井 勉・金子美知子
・岩淵 黙人・瀧 正治・江澤多香子（一名欠席）

最高賞（賞状・入賞句彫刻楯 副賞・平成十三年『路』合作本）

詰め腹を切る本日はソクラテス

川瀬 渡風

（特選）水華 登代子（秀逸）和子（佳作）正治 一洲



年間最高賞の栄誉に浴して 川瀬渡風

「お父さん！すごいんじゃない」と、この嬉しい知らせを入院中のベッドに妻が持ってきてくれた。突発性難病の痛みで眠られぬ夜が続く中、嬉しくて眠れぬ夜が一つ増えた。神は何んてことをするんだろう。

昨年度末のこと、二年間続けた職業上の大役をさらに続けるべきか否かで大分悩んだ。体力的な自信喪失、対人関係軋轢、後継者育成等の理由をこじつけて、年間給与が多少減ろうとも「一日だけでも哲人になったつもりで」自らを律し、詰め腹を切ることにした。一旦決めてしまえば、後は「凡人」清々した気持ちですっと浮かんだこの一句。友達にこの句を見せたら「いい句だ。だけど、ソクラテスとは大袈裟だね」。「無知の知」を説いたソクラテス、瞬時の閃きの中に大哲人の名前を詠みこんだ無知と無謀を今は恥じている。

次点

まな板の鯉忠臣の顔でいる 土谷 正

（特選）和子 正治

民主主義そろそろ洗濯しませんか 山田 不及

（特選）登代子 水華

金魚の死小指が欠けていくような 樋口 仁

（特選）黙人（秀逸）勉（佳作）水華

かさぶたの下で時刻を待っている 大橋 政良

（秀逸）水華 和子 勉

蒼天に熟した柿のナルシズム 飯田サイコ

（特選）和子（秀逸）水華

はないちもんめ影を千切って耐えている 岩淵 黙人

（秀逸）登代子 水華 勉

ふるさとの言葉で自分史を閉じる 荻原 鹿声

（秀逸）勉 美知子

父の位置戦さのあとは釣り葱	高橋 甫
(特選) 勉	
黄昏れて丸くまゝるく生きる知恵	富田ひで子
(特選) 勉	
風雪に耐えた巨木が出すオーラ	対馬ひで子
(特選) 美知子	
残照の丘で明日の絵を描く	松田 一洲
(特選) 美知子	
砂が崩れることをそろそろ子に話す	瀧 正治
(特選) 黙人	
からっばの壺から湧いてくる訝	藤原 和美
(特選) 多香子	
十指みな無傷で風が掴めない	松田 一洲
(特選) 多香子	
ぬかるみの方へ転がる青りんご	内平登代子
(特選) 正治	
砂時計何かが逃げる音がする	吉澤 和子
(特選) 一洲	
原爆忌怒りに署名熱くなる	野村 春香
(特選) 一洲 (秀逸) 美知子	
終着駅に来たが手荷物何もない	大橋 政良
(秀逸) 一洲 (佳作) 水華	
波打ち際の説得力にかなわない	保田 二郎
(秀逸) 一洲	
消す過去を捌ききれないシュレッダー	松戸 定明
(秀逸) 一洲	
ガーデニング幸せ紛い吊り下げ	神戸みず帆
(秀逸) 和子	
長寿園あちらこちらで狂い咲き	常石 麗子
(秀逸) 登代子	
連凧よ地雷だらけの地上です	千葉 風樹
(秀逸) 登代子	
冒険の地図へ矢印入れたがり	神戸みず帆
(秀逸) 美知子	
落ち込みの激しい指が二本ほど	樋口 仁
(秀逸) 黙人	
人間の話をしよう影法師	関川 岳司
(秀逸) 黙人	
何も出ぬハンカチだけど明日へ振る	門林 操子
(秀逸) 黙人	

枯野残像こだわりの絵をまだ探す	沢田 清敏
(秀逸) 多香子	
夕焼けを少し忘れる宝くじ	荻原 鹿声
(秀逸) 多香子	
神の目に止まらぬ位置で小さく生き	神戸みず帆
(秀逸) 多香子	
斎場の時間を千切る窓灯り	藤原 和美
(秀逸) 正治	
我ながら見事な嘘の出る介護	小泉 正巳
(秀逸) 正治	
針飲めば済む指切りそして別れ	神谷三八朗
(秀逸) 正治	
この指にとまって幸せだったかい	二宮 茂男
(佳作) 和子 正治	
参拝に是非か水瓜真二つ	江澤 多香子
(佳作) 水華 一洲	
不確かな時代湯豆腐まで逃げる	後藤 洋子
(佳作) 和子	
針に糸残して母の夏祭り	内平登代子
(佳作) 和子	
見られたくない日もあろう金魚鉢	吉澤 和子
(佳作) 登代子	
肩の荷を一つ降ろせば二つ老い	岩淵 不弁
(佳作) 登代子	
白か黒だけが残った絵の具箱	小泉 正巳
(佳作) 登代子	
手短にお願いします孫自慢	妹尾 安子
(佳作) 勉	
ユニクロの傘さす午後の通り雨	前橋多鶴子
(佳作) 勉	
イントロが長くて叱るのを忘れ	対馬ひな子
(佳作) 勉	
身の丈を知らず眠りが浅くなる	高橋里江子
(佳作) 美知子	
無人駅ゴッホの夏が燃えている	堀井 勉
(佳作) 美知子	
魔術師のポケットだけはさぐるまい	沢田 清敏
(佳作) 美知子	
或る日不意に一輪挿しに移された	門林 操子
(佳作) 黙人	

棘を抜きながら自分になってゆく

田中寿々夢

(佳作) 黙人

落とし蓋しみじみ妻と煮零れる

瀧 正治

(佳作) 黙人

パチンコをした手で今日も写経する

岩本 和夫

(佳作) 多香子

火のそばに人間が寄る罪が寄る

荒巻 重義

(佳作) 多香子

ここまでは男そこから逃亡者

田中寿々夢

(佳作) 多香子

熱いよと一声かけて茶を供え

浅津 正美

(佳作) 正治

人生の迷路にあつた誤字脱字

園山 栄

(佳作) 一洲

誰がために炎えるか冬の紅薔薇

渡部トミ子

(佳作) 一洲

膝までの水浮き輪を出す過保護

大黒谷サチ工

(佳作) 水華